



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年8月9日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawawango.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川上 量生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 小松 百合弥 TEL 03-3549-6370
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	49,631	△0.6	399	△49.5	1,111	73.7	368	—
30年3月期第1四半期	49,941	1.9	790	△71.1	640	△68.6	△23	—

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 1,725百万円 (120.9%) 30年3月期第1四半期 781百万円 (4.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	5.64	—
30年3月期第1四半期	△0.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	232,276	108,335	45.7	1,642.80
30年3月期	239,881	109,128	44.7	1,629.37

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 106,255百万円 30年3月期 107,136百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期（予想）	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	231,000	11.7	8,000	154.4	9,100	144.8	5,400	420.1	82.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期1Q	70,892,060株	30年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	6,212,238株	30年3月期	5,139,152株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期1Q	65,383,509株	30年3月期1Q	67,841,685株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、あらゆるコンテンツの価値を高めるプラットフォームとしての飛躍を目指し、出版から総合メディア企業を目指す株式会社KADOKAWAと、ネットとリアルとの融合を目指すIT企業株式会社ドワンゴの創造性を結集しながら、魅力あるコンテンツをあらゆるメディアにマルチ展開させて収益を最大化させるメディアミックス戦略を積極展開しております。

当第1四半期連結累計期間における各セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

Webサービス事業の売上高は67億75百万円（前年同期比11.0%減）、セグメント損失（営業損失）は4億11百万円（前年同期 営業損失72百万円）となりました。

ポータルでは、日本最大級の動画プラットフォームである「niconico」における「ニコニコプレミアム会員」のサービス収入を柱とし、ウェブサイト上のバナー等の広告、有料動画等の関連収益を計上しております。当第1四半期末における「ニコニコプレミアム会員」は200万人に減少し、また改善対応にかかる費用や新サービスの開発費用が減益要因となりました。期初想定よりもプレミアム会員数の減少幅は小さく、業績は期初予想を上回る結果となりました。

「niconico」においては、動画のフルHD画質（1080p）や生放送のHD画質（720p）対応、動画の非ログイン視聴対応等、動画・生放送サービスの機能改善に注力し、6月28日に新バージョン（く）（読み方：クレッシェンド）を提供開始いたしました。

当連結会計年度においては、回線の増強（730Gbpsから1400Gbps）や、スマートフォンアプリの改善、ニコニコ生放送の非ログイン視聴対応等を中心に更なる改善を進めております。また、VRコミュニケーションサービス「バーチャルキャスト」と「ニコニコ生放送」において「ギフト」の導入や、オリジナルゲームの投入も予定しており、会員増加や収益力の向上による「niconico」の再成長に向けて取り組んでおります。

ライブでは、競合する他の動画サービスとの差別化を図るべく、「ネットとリアルとの融合」をテーマに各種ライブイベントの企画・運営、ライブハウス「ニコファーレ」の運営等を行っております。平成30年4月に開催した「ニコニコ超会議2018」の2日間の会場来場者数は過去最高の16万1,277人を記録、インターネット視聴者数は612万1,170人となりました。

モバイルでは、シングル楽曲/着うた[®]等の配信を行う総合エンタテインメントサイト「dwango.jp（ドワンゴ ジェイビー）」や、アニメ総合ポータルサイト「animelo」からの収益を計上しております。有料会員数は減少しておりますが、引き続き、外注費や広告宣伝費等の固定費削減に努めており、収益性を維持しております。

出版事業の売上高は265億80百万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益（営業利益）は10億37百万円（前年同期比5.3%減）となりました。書籍、雑誌の新刊点数は前年同期と比べて抑え目でしたが、電子書籍・電子雑誌がそれを補う形で伸長し、業績は堅調な滑り出しとなりました。

電子書籍・電子雑誌では、主力事業である電子書籍外販事業や当社グループの総合電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」での販売は引き続き好調に推移しております。グローバル戦略を推し進めるため平成27年10月にグランドオープンした「BOOK☆WALKER Global」や平成28年2月にオープンした「台湾BOOK☆WALKER」も高い成長を維持しております。また、電子書籍・電子雑誌の更なる成長のため、無料マンガサービス「ニコニコ漫画」や読書管理サービス「読書メーター」等の当社グループの電子書籍関連サービスを株式会社ブックウォーカーに集約し、電子書籍のプロモーションから販売まで一貫したサービス展開が可能となりました。

書籍では、コミックスの「よつばと！（14）」「ダンジョン飯（6）」といった大型作品が好調に推移しています。ライトノベルは、市場が停滞している中で新たなヒットシリーズの創出、育成に注力しております。「ソードアート・オンライン」「魔法科高校の劣等生」といった人気シリーズは引き続き堅調に推移しています。メディアミックス関連では、映画「ラプラスの魔女」の原作本や映画「未来のミライ」関連本が好調に推移しています。7月スタートの新アニメでは、「オーバーロード」関連本や、「niconico」で大人気のフリーゲーム「殺戮の天使」のコミカライズ本が当第1四半期に出荷されており好調に推移しています。書籍はメディアミックス展開の重要な源泉の一つであり、ヒット作創出のため年間5,000点の新刊を発行する予定です。なお、平成32年4月にフル稼働を予定している最新鋭の製造・物流拠点においては、工場建設やシステム整備等がスケジュール通り順調に進捗しており、一部の文庫やライトノベルにおいて、デジタル印刷による商業生産を開始いたしました。

雑誌では、刊行計画や発行部数の見直し等で雑誌販売は減少しております。地域情報誌「Walker」シリーズ、ライフスタイル誌「レタスクラブ」等ではWebメディアとの連動によるビジネスモデルの転換を進めており、Webメディアのページビューや広告収入の増加等の成果につなげてまいります。

映像・ゲーム事業の売上高は111億59百万円（前年同期比4.0%増）、セグメント利益（営業利益）は8億77百万円（前年同期比36.5%増）となりました。

映像では、4月スタートの新アニメ「STEINS;GATEゼロ」「フルメタル・パニック！ Invisible Victory」「ヒナまつり」等の海外ライセンス販売が収益に貢献しました。また、「劇場版 ソードアート・オンライン - オーディナル・スケール -」「Re:ゼロから始める異世界生活」等の商品化許諾による収益貢献があり、国内外問わず豊富なIPを活用したビジネス展開を拡大させております。（株）ムービーウォーカーの展開する劇場前売券サービス「ムビチケ」も好調に推移し収益貢献しております。

ゲームでは、当第1四半期に販売予定だったパッケージゲームのうち第2四半期以降に発売延期となったタイトルがあったものの、「DARK SOULS REMASTERED」「METAL MAX Xenon」等のパッケージゲームや、平成27年3月発売の「Bloodborne」や平成28年3月発売の「DARK SOULS III」の海外ロイヤリティ収入が好調で、前年同期並みの業績を維持しました。

その他事業の売上高は59億79百万円（前年同期比11.3%増）、セグメント損失（営業損失）は3億1百万円（前年同期 営業損失85百万円）となりました。

その他事業では、ネットとリアルを融合させた双方向性を特長とする教育プログラムの提供や、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営を行う教育事業、キャラクター商品の企画・制作・販売やアイドルCDのeコマース等のMD（物販）事業を行っております。また、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年を収益化の目途としているインバウンド事業の準備費用が計上されております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高496億31百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益3億99百万円（前年同期比49.5%減）、経常利益11億11百万円（前年同期比73.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億68百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失23百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて76億5百万円減少し、2,322億76百万円となりました。自己株式の取得、支払手形及び買掛金並びに賞与の支払等により現金及び預金が減少しました。

負債は、前連結会計年度末に比べて68億12百万円減少し、1,239億40百万円となりました。支払手形及び買掛金並びに賞与引当金が減少しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて7億92百万円減少し、1,083億35百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益を計上した一方で、配当金の支払等により利益剰余金が減少し、さらに自己株式の取得により株主資本が減少しました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少等があったものの、仕入債務及び賞与引当金の減少並びに法人税等の支払等により、12億6百万円の支出（前年同期は31億10百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等により、30億19百万円の支出（前年同期は23億99百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得及び配当金の支払等により、29億31百万円の支出（前年同期は18億40百万円の支出）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて71億72百万円の支出となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、602億34百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから、通期の業績予想のみを開示することとしております。なお、通期連結業績予想については、平成30年5月10日に公表しました業績予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	85,962	78,675
受取手形及び売掛金	44,734	40,281
たな卸資産	17,301	17,772
前払費用	1,540	1,724
預け金	2,219	2,705
その他	4,205	4,893
貸倒引当金	△651	△681
流動資産合計	155,312	145,371
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,852	17,091
減価償却累計額	△5,298	△5,491
建物及び構築物 (純額)	10,553	11,600
機械及び装置	2,537	2,619
減価償却累計額	△695	△777
機械及び装置 (純額)	1,842	1,842
工具、器具及び備品	11,045	10,793
減価償却累計額	△7,584	△7,333
工具、器具及び備品 (純額)	3,460	3,459
土地	19,948	20,255
建設仮勘定	9,977	9,002
その他	364	348
減価償却累計額	△247	△239
その他 (純額)	116	109
有形固定資産合計	45,899	46,268
無形固定資産		
ソフトウェア	5,632	5,533
のれん	1,055	975
その他	2,107	2,251
無形固定資産合計	8,795	8,760
投資その他の資産		
投資有価証券	21,072	23,845
退職給付に係る資産	54	51
差入保証金	3,968	3,976
繰延税金資産	2,512	1,681
その他	2,981	3,034
貸倒引当金	△715	△714
投資その他の資産合計	29,874	31,875
固定資産合計	84,569	86,904
資産合計	239,881	232,276

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,613	23,688
短期借入金	505	505
1年内返済予定の長期借入金	14,844	14,482
未払金	6,832	5,146
未払法人税等	1,195	801
前受金	8,013	6,873
預り金	3,237	4,600
賞与引当金	2,712	1,600
ポイント引当金	94	101
返品引当金	7,275	6,683
株式給付引当金	119	109
役員株式給付引当金	126	126
その他	2,695	2,836
流動負債合計	74,266	67,557
固定負債		
長期借入金	50,050	50,000
繰延税金負債	1,142	1,090
退職給付に係る負債	3,289	3,300
その他	2,004	1,992
固定負債合計	56,487	56,383
負債合計	130,753	123,940
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	62,095	62,095
利益剰余金	28,846	27,867
自己株式	△7,452	△8,712
株主資本合計	104,114	101,875
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,841	3,671
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1,100	630
退職給付に係る調整累計額	69	68
その他の包括利益累計額合計	3,021	4,380
非支配株主持分	1,992	2,079
純資産合計	109,128	108,335
負債純資産合計	239,881	232,276

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	49,941	49,631
売上原価	36,462	36,280
売上総利益	13,479	13,351
販売費及び一般管理費	12,688	12,951
営業利益	790	399
営業外収益		
受取利息	21	24
受取配当金	234	351
持分法による投資利益	190	140
為替差益	—	161
その他	64	72
営業外収益合計	510	749
営業外費用		
支払利息	24	23
為替差損	26	—
寄付金	610	—
その他	0	14
営業外費用合計	661	37
経常利益	640	1,111
特別利益		
固定資産売却益	—	6
投資有価証券償還益	125	—
特別利益合計	125	6
特別損失		
投資有価証券評価損	32	0
特別損失合計	32	0
税金等調整前四半期純利益	732	1,118
法人税等	751	703
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18	414
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	45
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△23	368

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△18	414
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,051	1,830
為替換算調整勘定	△238	△491
退職給付に係る調整額	5	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△18	△26
その他の包括利益合計	800	1,311
四半期包括利益	781	1,725
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	799	1,727
非支配株主に係る四半期包括利益	△18	△1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	732	1,118
減価償却費	1,227	1,382
のれん償却額	46	43
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△14	11
返品引当金の増減額 (△は減少)	△546	△568
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,835	△1,111
受取利息及び受取配当金	△255	△375
持分法による投資損益 (△は益)	△190	△140
売上債権の増減額 (△は増加)	3,649	4,357
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△560	△522
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,313	△2,861
前受金の増減額 (△は減少)	△1,143	△1,131
その他	△361	△470
小計	△1,566	△268
利息及び配当金の受取額	338	625
利息の支払額	△11	△11
法人税等の支払額	△1,870	△1,551
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,110	△1,206
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△1,348	△57
有形固定資産の取得による支出	△790	△1,734
無形固定資産の取得による支出	△582	△975
投資有価証券の取得による支出	△27	△311
投資有価証券の償還による収入	225	—
出資金の分配による収入	47	64
その他	75	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,399	△3,019
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△47	22
長期借入金の返済による支出	△414	△412
非支配株主からの払込みによる収入	40	108
自己株式の取得による支出	△0	△1,267
配当金の支払額	△1,391	△1,348
その他	△26	△33
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,840	△2,931
現金及び現金同等物に係る換算差額	△59	△16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,409	△7,172
現金及び現金同等物の期首残高	91,140	67,407
現金及び現金同等物の四半期末残高	83,731	60,234

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

連結子会社である㈱KADOKAWAは、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について主として定率法（平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法へ変更しております。

この変更は、㈱KADOKAWAにおいて経営環境の変化と競争力確保を目的として書籍の製造・物流一体の最新鋭工場の建設を進めており、当第1四半期連結会計期間より生産設備が順次新規稼働したことを契機として、減価償却方法の見直しを行ったことによるものです。当該検討の結果、㈱KADOKAWAにおける有形固定資産はその使用期間中を通じ安定的な稼働が見込まれることから、定額法に変更し使用期間を通じて均等に費用配分を行うことが、事業の実態をより適切に反映するものと判断いたしました。

この変更により、従来の方と比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ73百万円増加しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	7,521	26,621	10,544	5,248	49,935	6	49,941
セグメント間の内部 売上高又は振替高	87	391	191	123	794	△794	—
計	7,608	27,013	10,735	5,371	50,729	△787	49,941
セグメント利益又は 損失 (△)	△72	1,094	642	△85	1,580	△789	790

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△789百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去38百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益446百万円、全社費用△1,274百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	6,756	26,054	10,963	5,839	49,613	18	49,631
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	525	196	140	881	△881	—
計	6,775	26,580	11,159	5,979	50,495	△863	49,631
セグメント利益又は 損失 (△)	△411	1,037	877	△301	1,201	△801	399

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△801百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去55百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益560百万円、全社費用△1,417百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。